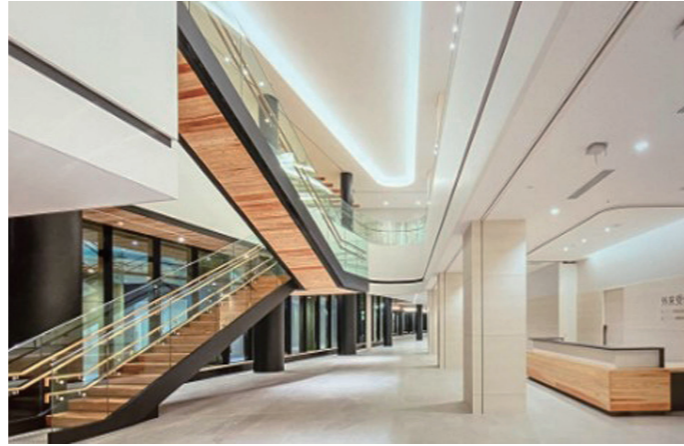


浜松医療センター A棟



外観

「浜松医療センター」は、1973(昭和48)年に開設された地域の中核病院。新病棟は、街並みに溶け込むよう圧迫感を抑え、敷地形状にあわせ曲線を活かした柔らかな外観となっている。



1F 外来・コミュニティホール

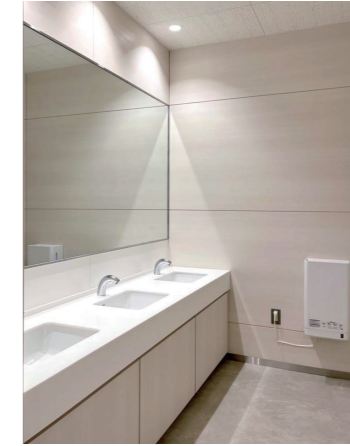
正面玄関を入った外来受付前は、曲線を用いた柔らかな天井照明が映える、吹き抜けの開放的な空間。印象的な階段をはじめ、杉材の木目をアクセントとしブラックラインで整えられた意匠が、空間を引き締めている。



1F 外来男性トイレ



小便器は、床の清掃性に配慮して壁掛型の自動洗浄小便器を設置。さらに、停電時でも利用できるよう発電タイプを採用している。



1F 外来女性トイレ



洗面コーナーには、非接触で手洗いができる自動水栓を採用。大便器は、清掃性に優れた壁掛大便器セット・フラッシュタンク式を設置し、すべてのブースにL型手すりと呼出ボタン、1ヶ所にベビーチェアを完備している。



1F 外来バリアフリートイレ

乳幼児連れ、オストメイトなどさまざまな利用者に対応できるよう、コンパクトバリアフリートイレバックとベビーシート、ベビーチェアを設置。新病棟には複数のバリアフリートイレが用意されている。



1F 核医学検査室



核医学検査などの放射性医薬品を用いる核医学が行われ、万が一のトラブルが発生した際に、早急に洗い流しができる除染室として、シャワーユニットを設置。また、同室内にはバリアフリートイレも完備している。

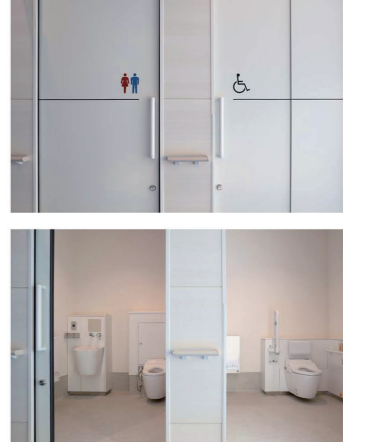


2F 外来・ラウンジ

大きく曲線を描くガラス張りのゆったりしたラウンジは、緑を見ながら休憩や待機ができる。天井には、木製のルーバーを用いた照明をリズムカルに配して、あたたかみのある心地よい空間としている。



2F 外来トイレ



外来トイレには、利用者の身体状況や設置場所にあわせて幅広く対応できるよう、乳幼児連れ配慮トイレ、車いす使用者優先トイレ、オストメイト配慮トイレが機能分散して配置されている。



2F 採尿トイレ 男性トイレ



明るく衛生的な印象のトイレ空間。小便器コーナーに仕切りを設け、その奥に採尿窓口が設けられている。



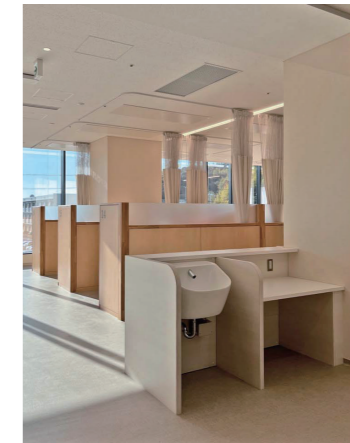
2F 採尿トイレ バリアフリートイレ

採尿窓口は、車いすのまま採尿コップが提出しやすいよう配慮し、便器前方などアプローチしやすい場所に設置している。

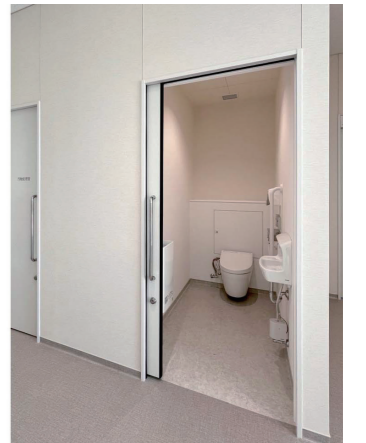


2F 内視鏡検査室

検査前後にトイレを使用することが多いため、手洗器とクリーンドライ(ハンドドライヤー)を備えた個室完結型ブース6ヶ所とバリアフリートイレを完備。性別を問わず空きブースを利用できるよう男女共用としている。



2F 化学療法室



抗がん剤投薬が行われる外来化学療法室には、個別ベットが並び、長時間の点滴時にも、室内で使用できるトイレを2ヶ所設置。抗がん剤暴露対策として、蓋を閉めてから便器洗浄できる便ふた付きを採用している。

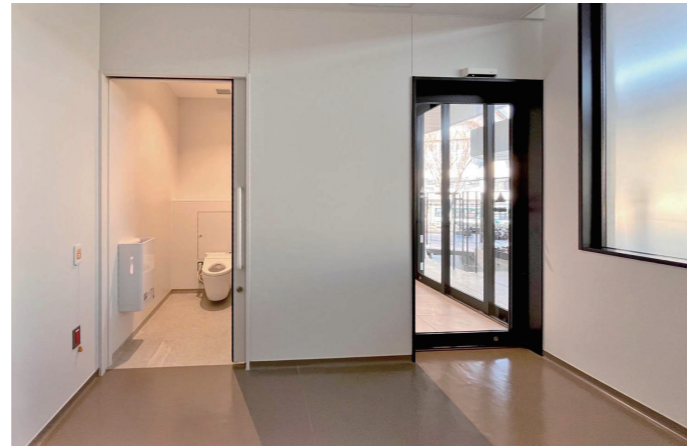
浜松医療センター A棟



2F 救急搬送入口



救急搬送入口には、ストレッチャーのままシャワー設備を使用できるよう、一角に、壁はタイル、床をグレーチングとしたコーナーを設置。作業効率を考慮し、手元で出し止めできるクリックシャワーを採用している。



2F 感染症外来 待合室

感染症外来には、外部から直接入室できる専用の出入口を設け、待合スペースにはトイレを完備。手すりや呼出ボタンを備え、利用者のケアがしかりできるよう配慮している。



3F ICU

現場スタッフの要望にて、ICU内に設けられたトイレ。さまざまな状態の患者を両サイドからサポートできるようにコーナーに設置している。



3F スタッフステーション

スタッフステーションの出入口横には、常に手洗いが励行できるようスタッフ用手洗器を設置。腰をかかめず楽な姿勢で使用でき、さらに非接触でしっかり手洗いできる環境を整備している。



3F 一般病棟 シャワー室

自立使用できる方のシャワー室には、容易に全身シャワーができるオーバーヘッドシャワーを採用。ストレッチャーのままシャワー浴ができるシャワー室には、奥と手前から洗浄ができるよう2ヶ所にシャワー水栓を設置。



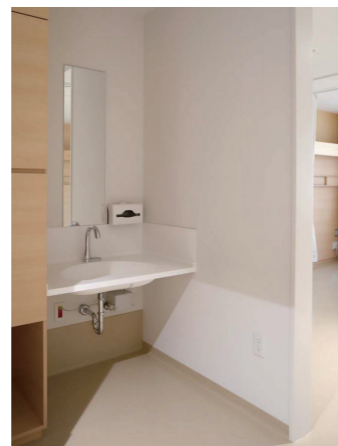
3F 一般病棟 共用部トイレ

広い空間に手洗器を備えた個室完結型トイレを設置している。



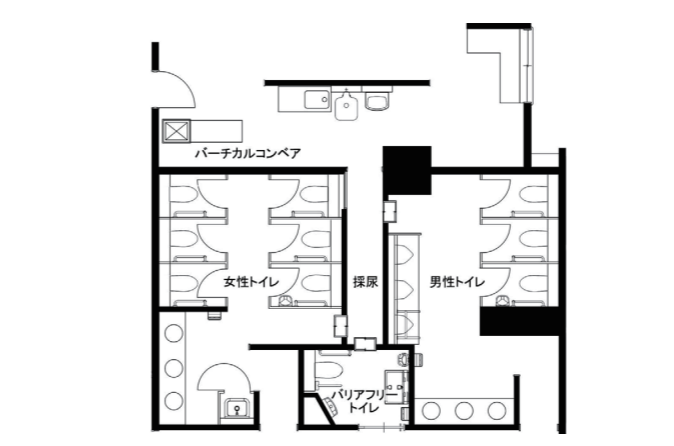
4F 周産期病棟

体調不良の際に配慮し、座りながらシャワー浴ができる椅子付きのシャワーユニットを採用。トイレには、座位姿勢を保ち、移乗時の後方への衝撃もやわらげる背もたれ付きのトイレ用手すりと前方ボードを設置している。



6F 整形外科 病棟

洗面コーナーの水栓は、自動と手動、湯水の切替えができる自動水栓を設置。さらに、整形外科の病棟トイレには、便器への立ち座りを電動で補助するトイレリフト付き便座を採用している。



2F 採尿トイレ図面

パーチカルコンベアを使用して、検体を1Fの検体検査室へ垂直搬送することができるため、利用者の利便性に配慮して、2Fにも採尿トイレを設けている。

水まわりの特長

建物の特徴

「浜松医療センター」は、1973(昭和48)年に開設された、地域の中核病院。高度急性期医療、救急医療、小児周産期医療、がん医療、アレルギー疾患、感染症、そして災害時の拠点病院の任を担っている。2024(令和6)年1月に、構想から10年の期間を経て新病棟が完成し、既存棟と併せて606床を有する新鋭の施設となった。新病棟では、最先端の医療設備や救急医療が充実。手術支援ロボットや高精度放射線治療装置、「ハイブリッドER」なども導入し、迅速かつ高度な医療を提供。災害、救急の拠点として、屋上にはヘリポートも設置されている。病院建物内は、外来受付やラウンジをはじめ、自然光が差し込む大きな窓を採用、利用者の心が癒される空間となっている。

水まわりの特長

基本理念である「安全・安心な、地域に信頼される病院」のもと、水まわり設備も利用者視点で計画。院内の各診療科や病棟ごとに利用者の状態に応じた水まわりを適所に配置し、各エリア内で完結できるようにしている。スペースや配置は、利用者に加えてスタッフの動きなども考慮。また、車いす使用者の利用を多く想定し、広さを確保したバリアフリートイレを各エリアに配置。その設備も乳幼児連れ配慮、オストメイト配慮、車いす使用者配慮など、利用目的にあわせて機能分散させている。さらに、壁掛式大便器を採用するなど、衛生性や機能性を確保した器具も採用。また、病棟の水まわりは、施工段階で病院スタッフが使い勝手や手すりの位置などをTOTOショールームで検証して選定した。

建築概要

名称	浜松医療センター A棟
所在地	静岡県浜松市中央区富塚町328
施主	浜松市
設計	久米・竹下設計等共同企業体
施工	清水・須山・中村組特定建設工事共同企業体
竣工年月	2023年12月
敷地面積	16,273.23㎡
建築面積	10,175.53㎡
延床面積	39,757.22㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造、鉄骨造・地上7階

おもなTOTO使用機器

- 壁掛大便器セット・フラッシュタンク式:UAXC3CSN
- ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534AU
- 棚付二連紙巻器:YH701
- 自動洗浄小便器:UFS900WR
- 洗面器:L505特
- 台付自動水栓:TENA50AW
- クリードライ(ハンドドライヤー):TYC420W
- コンパクト・バリアフリートイレバック:UADAK21R1A1ADD2WA、UADAK01L1A1AND2WA
- コンパクトオストメイトバック:UAS81RDB2NW
- 多目的シート:EWC520ARR
- ベビーシート:YKA24S、YKA25S
- ベビーチェア:YKA15S
- 前方ボード(はね上げタイプ):EWC720R
- パブリック用手すり:T112CL9、T112CU22、T112HK7R
- トイレリフト:EWC151